

---

## 新型コロナウイルス濃厚接触者隔離入院の問題点

---

医療法人衆和会 長崎腎病院

○田島有佳 植木秀一 船越 哲

### 【背景】

当院は透析専門病院で入院 79 床、透析患者約 420 名を有する中規模病院である。2020 年 7 月より 12 月末まで 18 名の新型コロナウイルス濃厚接触者の隔離入院・透析を受け入れ、問題となった症例を報告する。

### 【症例 1】

81 歳男性、要介護 3、MMSE16 点、妻と 2 人暮らし。家族が感染し濃厚接触者となり隔離入院透析となったものの、患者隔離入院を理解ができず譫妄が出現し、個室隔離が困難な状況もみられた。ADL低下を避けるため、抗原定量検査で陰性を確認し入院 10 日目から隔離区域でのリハビリを開始とした。

### 【症例 2】

55 歳女性。濃厚接触者となり、隔離入院・透析となった。無症状、ADL自立で問題なく入院経過していたが、入院 6 日目に突然、譫妄と失見当識が出現。拘禁反応を疑い、抗原定量検査で陰性を確認し退院とした。

### 【考察】

隔離入院はADL・認知機能の低下を招く恐れがあり、これらをいかに防ぐかが課題である。若年層で自立している患者であっても、濃厚接触者という特殊な状況での入院は精神的に大きな影響を与える事を念頭に入れ対応していく必要がある。